

米国で系統用蓄電池の需要伸びる

◆グーグルがアリゾナ州で大規模蓄電池による再エネ調達開始

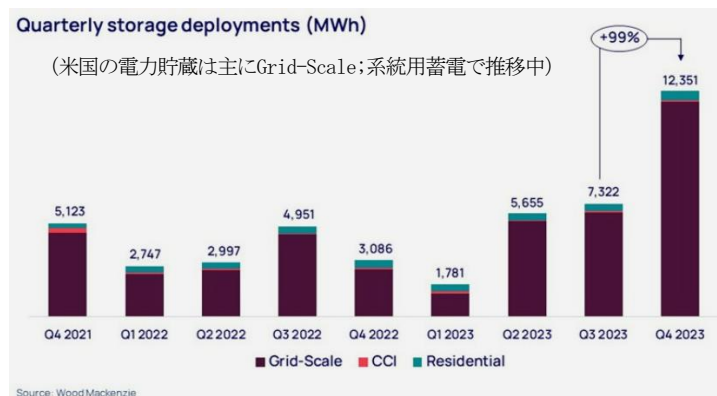
グーグルは、アリゾナ州で2024年3月から同州最大規模の系統用蓄電池（電力系統に接続する蓄電施設）からグリーン電力の調達を開始した。アリゾナ州の地域電力会社が運営する「ソノラ太陽エネルギーセンター」（260MWメガソーラーと最大1GWhを送電可能な系統用蓄電池）からのグリーン電力は、グーグルの北米で15ヵ所目の新データセンター（同州で23年9月着工）で利用される。

グーグルの23年7月発行の環境レポートによれば、10年から22年までにグリーン電力を世界で80件以上の購入契約を交わし、合計の発電容量は10GW以上ある。すでに17年以降、世界中の自社消費電力の100%以上に相当する再エネを同社は調達しているが、施設により、あるいは時間帯により火力発電に頼っている部分がある。同社の目標は30年までに業務上の電力を24時間絶えず、すべてグリーン電力にすることにある。このため同社では再エネ電力の貯蔵による系統用蓄電池からの安定したグリーン電力を求めている。

◆米国の蓄電量の大幅な増加は、データセンター需要か

米国クリーン電力協会 (ACP) は、四半期毎の「米国の電力貯蔵モニター」レポートで、米国の23年第4四半期に新たに導入された電力貯蔵容量が12GWhを超えたと報告した。カリフォルニア州がもっとも多く、テキサス州が続く。23年に導入された米国全体の電力貯蔵容量は26GWhに達すると示した。

図 米国全体の蓄電導入量



※CCIはCommunity, Commercial, and Industrial;コミュニティ、商業、産業用
出所: U.S. Energy Storage Monitor, American Clean Power Association, 2024. 3

米国で電力貯蔵が伸びている要因の一つは、環境対応を進める米大手企業のデータセンターのグリーン電力需要と考えられる。米国での系統用蓄電池による電力需要が、AI需要の増加とともにどのように動くか注目される。【新井喜博】